

## 第2回 防災文化講演会にて講演しました(2013/11/16)

場所：気仙沼市中央公民館（気仙沼市）  
 テーマ：「東日本大震災における医療対応と課題改善への取り組み」

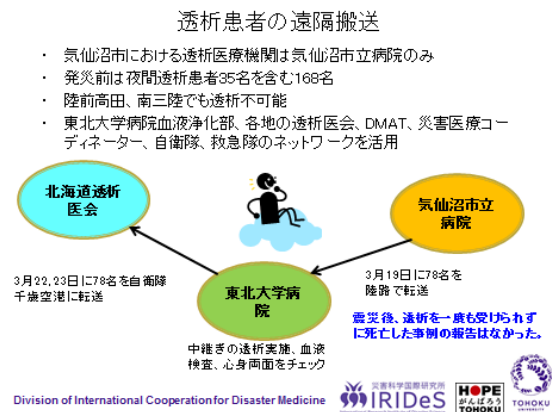
11月16日（土）に気仙沼市中央公民館で開催された第2回防災文化講演会において江川新一教授が講演しました。災害科学国際研究所が気仙沼分室をたちあげたことを契機に、リーディング大学院の研究成果やバーチャルリアリティ、クイズ出題などを行うとともに、今村文彦教授が「地震・津波研究の役割と課題」、江川新一教授が「東日本大震災における医療対応と課題改善への取り組み」と題して講演を行いました。

江川新一教授は、東北地方にいい医師を増やすための方策として良陵協議会や東北メディカルメガバンクが行っている事業を紹介し、東日本大震災までに形成されていた災害医療体制、東日本大震災で直面した現実と課題、課題解決にむけた取り組みについて講演を行いました。気仙沼市立病院を中心に行われた透析患者の広域搬送や、在宅支援の取り組み、東北大学から気仙沼市立病院に継続的な代替要員派遣を行ったこと、研究室として取り組んでいる受援力のあり方に関する研究なども紹介されました。気仙沼市教育委員会から、気仙沼の小学校がユネスコと提携していたことが支援をうける窓口となったことが紹介され、受援力を高めるとはどのようなことなのかについての質問がありました。

今村教授から今後もこの災害文化講演会を継続的に開催すること、運営に携わった助教諸氏の紹介があり、災害医療国際協力学の佐々木宏之助教からの受援力をはじめ、それぞれが研究分野についての簡単な説明をし、災害科学国際研究所が様々な分野の人材を擁していることが参加者に伝わりました。これからの連続講義が楽しみです。



講演する江川新一教授



気仙沼からの透析患者広域搬送

文責：江川新一（災害医学研究部門）